

2023年3月11日(土)

主催:(一般社団法人)障がい児成長支援協会

共催:障がい児成長支援協会 横浜栄区支部長

(株)幸資「ハピスタ本郷台」

～知らなかったでは済まされない！ 誰も教えてくれない！

# 「特別支援が必要な子どもの

# 進路と就労の話」

- 通常の学級と支援級と支援学校で何が違うのか？
- 将来自立して生きていくためには、何が必要か？
- 特別支援学校高等部には高等学校卒業資格がない？
- 支援級や不登校でも卒業できる高等学校がある！

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 代表理事・協会長

中部学院大学非常勤講師 山内康彦(学校心理士・ガイダンスカウンセラー)

# 恐るべし！教育予算(岐阜県の場合)

まずは、すべての県の予算の中で、一番多いのが「教育費」なんです。

■教育費 22.5%    ■民生費 12.8%

■公債費 11.8%    ■土木費 10.8%

■総務費 6.7% . . . . .

【そして教育費の89.1%が . . . . .】

人件費（教職員の給料）なのです。

人を増やせば、教育の質が上がると  
考えていては、民間施設であれば潰れます。

# 恐るべし！特別支援教育の教育予算

児童・生徒一人当たりの教育費はいくら？

※一年間で必要なお金（教育予算）は・・・

■幼稚園・・・約 93万円

■小学校・・・約 90万円

■中学校・・・約 100万円

■高等学校・・・約 107万円（全日制）

■高等学校・・・約 140万円（定時制）

※平均して一人に対して、約 100万円

そして■特別支援学校・・・約 618万円

# 恐るべし！特別支援教育の就職率

■特別支援学校高等部卒業者の就職率は・・・

全国 32.3%

なんと3人に一人しか就職できていない！

これが現実！「保護者として」「学校として」  
「行政として」「放デイ」として、今何ができる  
のか？を早期から考えていく必要がある。

# 『天を望みて、地を歩む』

→18歳の出口を考えて今の療育を行う

なぜ、「今が大切」と今ばかり見るのか？

→毎年変わる担任、責任がもてない？

《まず18歳以降の三つの生き方を考える》

- 1 手帳を使って「障害者」として生きていく
- 2 手帳をもたずに「健常者」として生きていく
- 3 1と2の合わせ技、手帳と学歴をもつ生き方

# それでは、中三以降どのような道に進むか

## 「特別支援学校高等部」進学か？

### それとも「高等学校進学」か？

×現在中3卒業後社会に出る子は100人に一人？

#### 1 特別支援学校高等部進学の場合

○通常の支援学校高等部に進学

○高等特別支援学校高等部進学 (学力必要)

#### 2 高等学校進学の場合

○通常の公立・私立の高等学校 (内申点必要)

○特別な高等学校（支援学級から進学可能）

（例）通信制サポート高校や専修学校

# 今日のお話の内容

(子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。)

- 1 支援学校～通常級で何が違うのか (1)
- 2 何が違うのか (2) 支援体制
- 3 何が違うのか (3) 進路・就労

# 支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学校は、生活単元中心  
学習よりも、「自立して生きていく力」を身につけていくことが最優先！！

☆小1では、ほとんど学習を行わず身辺自立最優先！！

☆小3から「ひらがな練習」ということもある。



# 支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（知的学級）は、

生活単元＋教科の授業

基本的に支援学校と同じ！

しかし、その子に合った学習も進めていく。

通常級の交流もその子に合わせてある。

☆「ひらがな」は小1から指導する。

# 支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（自閉・情緒学級）は、教科の授業＋自立活動（生単無し）基本的に学年の教科学習を行い、SSTなどの自立活動を行う。→その子によるが、**通常との交流も多く、通常学級に戻るケースも多い。**

# 支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通級指導教室は、

「ことば」と「情緒」の2種類  
が多い

通常級に籍を置き、週に1～  
数時間抜き出しで個別の指導  
を受ける。

自校の場合と他校の場合がある

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通常の学級は、教科の授業中心

原則、担任一人で、30人の  
子どもたちを担任。

合理的配慮を行わなくてはな  
らないが、現実には難しい。

※通常級に6.5%の発達障がいの子ども

# どのような基準で分けるのか？

## 判定は、市町村教育委員会

就学指導委員会・教育支援委員会等の名前

(教育委員会担当職員＋校長会代表＋専門医＋支援学校教員＋発達支援センター＋教育長等)＋保護者の願い等書かれた書類

①身辺自立ができているか。

②知的な遅れがあるか。

③情緒面の問題がないか。

※原則定例・・・臨時も有

変更する場合は、

まず校内の支援委員会で決定？

(校長＋教頭＋主幹教諭＋教務＋学年主任＋コーディネーター  
＋養護教諭＋支援学級担任＋通級の先生)

校内委員会で変更の必要があるとされると

まず、保護者に連絡

保護者の理解が得られると

教育委員会に書類が行く。

→校内委員会の通り進む

# 今日のお話の内容

(子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。)

- 1 支援学校～通常級で何が違うのか (1)
- 2 **何が違うのか (2) 支援体制**
- 3 何が違うのか (3) 進路・就労

支援学校→担任が2人

支援学級→担任が1人  
+支援員（県・市町村）

通常学級→担任が1人  
+支援員（県・市町村）

☆小3からは基本担任1人



# 園の加配には気をつけて！

最後の1年（年長）は支援員（加配）の先生がいなくてもできるようにしていく支援が必要がある！

×→加配がいないとできない子

◎→加配がいなくてもできる子

小学校以降は、簡単に人を増やすことができない→教育委員会の予算の関係

# 今日のお話の内容

(子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。)

- 1 支援学校～通常級で何が違うのか (1)
- 2 何が違うのか (2) 支援体制
- 3 何が違うのか (3) 進路・就労

# 支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学校は、高等部まで支援学校

通常の学校（支援学級）への変更は、事例としてほとんど無い。

→よほどのことがないかぎり通常の学校が受け入れない。

→手帳を使って、障がい者枠でよりよい就職先をめざす。

# 支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（知的）は、最終的に支援学校高等部→就職が多い

## 《理由》

知的な遅れがあるため、高等学校の学習についていけず、卒業することができないと判断される。高等学校は、留年がある。

# 支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（自閉・情緒）は、多くの子が障害者手帳がない。

（※要確認）

すると特別支援学校高等部に入学できない？

となると、高等学校進学をめざさなくてはならない。（※特別支援学校高等部の希望者が多く定員が一杯なため、原則手帳が必要？）

# 支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通常学級や通級は、原則高等学校進学をめざさなくてはならない。  
(通級は通常級にもどす努力)

## 《理由》

現在は、定時制、単位制や通信制など様々な高等学校ができています。  
→将来をみすえた支援が必要！！

# ①公立高校 特別支援対応校

(定時制・単位制・インクルーシブ枠・通級)

- 定時制高校 . . . ◎安い ○4年制も有  
(今は、“夜間”とは限らない)
- 単位制高校 . . . ◎安い ◎登校が少  
(学校によって様々な仕組み)
- インクルーシブ枠  
(通常の高校に特別枠が数名ある)
- 通級 . . . . 小中と同様の制度が高にも  
(まだまだ見切り発車のところがある)

## ②私立高校 特別支援対応校

(丁寧な支援・指導)例 星槎中・高校

○支援学級や内申点がなくても受け入れOK

○卒業後の推薦枠を多く持っている

※高校から中学校に事前の説明に来ている

※中学の先生に問い合わせれば教えてもらえる

(例)

万が一、たくさんの人数に対応ができなかったときは、“通信制”へ編入可能



### ③通信制高校 (例:N高・KTC・中央高等学院など) (たくさんの支援が必要な生徒も受け入れ可)

○出席日数に対して理解がある

○74単位で高卒という、少ない学習内容

○少人数・個別中心の指導

※「スクーリング」には参加する必要あり

▲学費が通常の高校の二倍近く必要になる

・通信制高校行っても様々なタイプがある

具体例：明蓬館SNEC高等学校・横浜・関内

※中学部からあります→早期からの資料請求・見学OK

## ④専修学校（専門学校＋通信制高校）

（調理・商業系など多くの種類の学校がある）

※「専門学校」＋「通信」で学習内容は多い  
（その内容に興味があれば◎）

▲「専門学校」＋「通信」で学費が少し高い

○基本、毎日朝から夕方まで出席する必要あり

○74単位＋専門学校の学習

（注意：国家資格は受かるとは限らない）

○基本、1クラス40人近い大人数の学習

・専門学校の内容にはいろいろなタイプがある

# 入学できることより「卒業できる」学校か？ 『卒業後の進路は大丈夫か？』を考える

## 《進路選びのポイント》

- ①入学試験は何か（学力試験の有無・面接）
- ②進級・卒業の条件  
（期末試験の有無・卒業単位数74～110）
- ③先生の専門性（どんな先生がいるのか）
- ④出席日数が一定量必用な学校なのか
- ⑤少人数・個別対応をしてくれる学校か？
- ⑥卒業後の進路や就労の面倒を見てくれるか
- ⑦卒業までにいくらお金が必要なのか？

まずは、何を身につけることが重要なのか

※0歳～15歳までに身につけたい社会性  
～S-M社会生活能力検査から～

- 1 身辺自立
- 2 移動
- 3 作業
- 4 意志交換
- 5 集団参加
- 6 自己統制



# 就労の違い(山内の指導経験から)

- 7歳未満の力なら養護施設
  - 授産所へ行くには (7歳の壁)
  - B型へ行くには (9歳の壁)
  - A型に行くには (12歳の壁)
  - 129項目全て達成できると  
「一般就労」が、ほぼ可能となる
- 「中学生の社会性」 → 「義務教育でつけた社会性」 → 「一人で自立して生きていくために必要な最低限の社会性」という事

# ご清聴ありがとうございました



## オススメ ほめる育て方や進路についてわかる本！

- ①特別支援教育って何？
- ②特別支援が必要な子どもの進路の話
- ③特別支援が必要な子どもの  
「就労」「進学」「進路」相談室→※新刊  
WAVE出版→書店・アマゾン等で購入可能！

